

KAMATA JAZZ LAB

10
/
10

Marty Holoubek & Friends

10/10 (fri)
Marty Holoubek & Friends

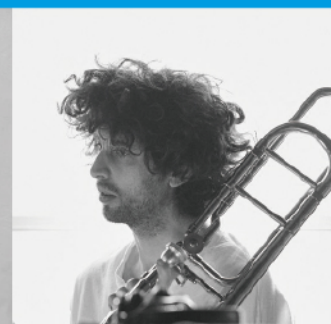
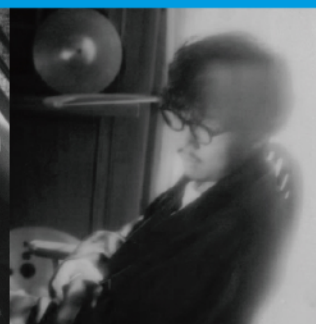
Marty Holoubek (Bs)
梅井 美咲 (Pf)
井上 銘 (Gt)
高橋 直希 (Drs)
James Macaulay (Tb)

11/13 (thu)
大林武司 & 馬場智章

大林武司 (Pf)
馬場智章 (T.Sax)

12/19 (fri)
カフカ駱

石橋 英子 (Pf)
Jim O'Rourke (Syn. Gt)
山本 達久 (Drs)



11
/
13

大林武司 & 馬場智章



12
/
19

蒲田から <JAZZ のいまとこれから> を発信

大田区民ホール・アプリコ 小ホール (地下1階)

JR 京浜東北線・東急多摩川線・池上線「蒲田駅」東口から徒歩3分/京急「京急蒲田駅」西口から徒歩7分

開演 19:00 (開場 18:30) / 終演 20:10 (途中休憩なし)

ticket 全席指定 ¥2,500 (税込) ※小学生以上入場可

カフカ駱



チケット発売情報

・Web: 8/13 (水) 12:00 ~ 右の二次元コードからご予約ください。

・電話: 8/18 (月) 10:00 ~ TEL. 03-3750-1555 (区民プラザ休館日を除く 10:00 ~ 19:00)

・窓口: 8/19 (火) 10:00 ~ 大田区民ホール・アプリコ (大田区蒲田 5-37-3) / 大田区民プラザ (大田区下丸子 3-1-3) / 大田文化の森 (大田区中央 2-10-1)

主催: 公益財団法人 大田区文化振興協会 / 企画制作: エイトアイランズ株式会社



10
/ 10

Marty Holoubek & Friends



Marty Holoubek (ベース)

南オーストラリアのアデレード出身。幼少期から音楽への情熱を抱き、10代でベースを始める。21歳の時メルボルンに移住し、その芸術的な才能が開花する。メルボルンではAllan Browne、Paul Grabowsky、Scott Tinkler、James Morrison、James Bowers、Clio Renner、Sex on Toastなどのアーティストと共演を重ねた。2018年新たな音楽の探求を求め東京へ移住し、日野皓正、Jim O'Rourke、石橋英子、ermhoi、崎山蒼志、HIMI、a子、角銅真実、石若駿、岡田拓郎、Answer to Rememberなど著名なアーティストと共演。アデレードで生まれ、メルボルンの音楽シーンで育ち、東京のクリエイティブな土壌にしっかりと根付いたMartyの音楽は世界中の観客を魅了している。



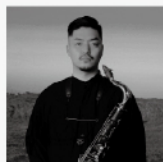
梅井 美咲 (ピアノ)

2002年生まれ、東京音楽大学作曲科卒業。ライブや録音にて、上原ひろみ、Geordie Greep (Black Mide)、Kendrick Scott、林正樹、新垣隆、石橋英子、君島大空、アイナ・ジ・エンド、吉澤嘉代子、ゆききゅんなどと共演。2025年Rolling Stone誌が選ぶ【Future of Music】に選出。6月には最新シングル「Tear.:*+」をリリース。7月、FUJIROCK FES'25 ROOKIE A GO-GO出演。ソロ名義では初となるアルバム『Asleep Above Creatures』リリース。

11
/ 13

大林 武司 (ピアノ)

米バークリー音楽院を卒業後ニューヨークを拠点に世界の第一線で活躍。自己のバンドを率い世界各地の主要ジャズクラブやフェスティバルに多数出演し、これまでに11作のリーダーアルバムを発表。2016年ジャズピアノの世界大会Jacksonville Jazz Piano Competitionにおいて日本人として初の優勝。Terri Lyne Carrington、Takuya Kuroda、Jose James、Nate Smithなど世界的ジャズアーティストと数多く共演する傍ら、近年はMISIA、木嶋真優など音楽界を牽引するトップミュージシャン達とのコラボレーションも数多く行っている。



馬場 智章 (テナーサックス)

2005年、バークリー音楽大学タイアップの「北海道グループキャンプ」にて優秀賞を受賞。2010年にはTerri Lyne Carringtonが指揮するバークリー・サマー・ジャズ・ワークショップのメンバーに選抜される。2015年バークリー音楽大学卒業後はニューヨークを拠点に活動。2020年に帰国後はリーダーとして『Storyteller』(2020年)、『Gathering』(2022年)の2枚のアルバムをリリース。2023年公開のアニメーション映画『BLUE GIANT』(音楽：上原ひろみ)では主人公・宮本大のサックス演奏を担当。また、Louis Cole Big Bandの一員として国内外のツアーに参加するほか、Mark Guiliana、Makaya McCraven、Marquis Hillなど世界各国のミュージシャンとのコラボレーションイベント「BaBaBar」をオーガナイズしている。2024年満を持してメジャーデビューアルバムとなる『ELECTRIC RIDER』をリリース。2025年にはInternational Jazz Day Global ConcertでHerbie Hancock、John McLaughlin等と共演、さらに自身のバンドELECTRIC RIDERSでSeoul Jazz Festival2025に出演を果たす。

12
/ 19

カフカ野



石橋 英子 (ピアノ)

日本を拠点に活動する音楽家。ピアノ、シンセ、フルート、マリンバ、ドラムなどの楽器を演奏する。Drag City、Black Truffle、Editions Mego、felicityなどからアルバムをリリース。2020年シドニーの美術館での展覧会の展示のための音楽を制作、発表。2021年、映画「ドライブ・マイ・カー」の音楽を担当、World Soundtrack AwardsのDiscovery of the yearとAsian Film Awardsの音楽賞を受賞。2022年「For McCoy」をBlack Truffleからリリース、アメリカ、イギリス、ヨーロッパツアーを行う。2022年よりNTSのレジデントに加わる。2023年、濱口竜介監督の「悪は存在しない」の音楽とライブパフォーマンスのためのサイレント映画「GIFT」の音楽を制作、国内外でツアーを行なっている。

Jim O'Rourke (シンセサイザー・ギター)

1969年シカゴ生まれ。10代後半にデレク・ベイリーと出会い、ギターの即興演奏を本格的に始める。ジョン・フェイフィの作品をプロデュースする一方、地元シカゴのバンドやプロジェクトに積極的に参加。「シカゴ音響系」と呼ばれるカテゴリーを確立する一方で、現代音楽とポスト・ロックの橋渡的存在となる。99年にはフォークやミニマル音楽などをミックスしたソロ・アルバム『ユリイカ』を発表。日本でも大注目された。2004年には、「Wilco/A ghost is born」のプロデューサーとして、グラミー賞を受賞。本国でも現代アメリカ音楽シーンを代表するクリエイターとして、高く評価されている。

山本 達久 (ドラムス)

主にドラムスを担当。独創的なソロや即興演奏を軸に、Jim O'Rourke/石橋英子との活動をはじめ、カフカ野、石橋英子ともう死んだ人たち、坂田明と梵人譚、禁断の翼棟、オハナミ、NATSUMENなどのバンド活動多数。ex. 芸害。青葉市子、UA、岡田拓郎、カヒミ・カリィ、七尾旅人、pewなど歌手の録音、ライブサポート多数。演劇の生伴奏・音楽担当としても都内を中心に活動。2011年にはロンドンのバービカンセンターにソロパフォーマンスとして招聘されるなど、海外公演、録音物も多数。2020年Black Truffle Recordsより「ashioto」、Newhere Recordsより「ashiato」をLPとDLでそれぞれリリース。ashiotoはイギリスのMOJO Magazin誌において2020年のBest underground record部門で1位を獲得。



井上 銘 (ギター)

神奈川県川崎市出身。2011年『ファースト・トレイン』を発表。2017年自身の新しいユニット”STEREO CHAMP”を結成し、2023年リリースの最新作『The Elements』を含め、これまでに3枚のアルバムをリリース。井上銘としては6枚のアルバムをリリース。さらに同年代の精鋭ミュージシャン達とのPOPSユニット“CRCK/LCKS”での活動や、Kurt Rosenwinkel、Chris Potter、Ulf Wakeniusら海外のトップミュージシャンとの共演、香港や、ロンドン等での海外ミュージシャンとの交流も活発で、2018年、2023年にはロンドンジャズフェスティバルに招聘されるなど、国内のみならずワールドワイドな舞台で積極的に活動を展開。



高橋 直希 (ドラムス)

北海道江別市出身。小学1年から中学3年までの9年間札幌ジュニアジャズスクールに在籍。在籍中のボストン遠征ではバークリー音楽大学にてタイガー大越より指導、また渡辺貞夫、デビッド・マシューズなど、多くのアーティストより指導を受けJAZZの楽しさを知る。2016年中学2年の時に札幌で初の自己ライブを開催し大盛況で終える。2020年から東京に活動の拠点を移す。2017年バークリー音楽大学講師による北海道グループキャンプにてBerklee Award受賞。2018年から日野皓正クインテットのメンバーに参加。2019年ジャワジャズフェスティバルに参加。



James Macaulay (トロンボーン)

オーストラリア出身。2017年“Australian National Jazz Award for Brass”を受賞。2019年3月拠点を東京に移し、日本での音楽活動を開始。現代ジャズとクラシック音楽に影響を受けた10人編成のポップバンド「ジェームズ・マコーレー・アンド・ザ・エンシェント・ハイボールズ」を率いている。メンバーは、ermhoi、栗林すみれ、井上銘、マーティ・ホロウベック、石若駿、タイキメン、中島明葉、西口明宏、佐瀬悠輔。また、即興演奏を織り交ぜたオリジナルの「クラシック」音楽を演奏するトロンボーン五重奏団も率いている。